

■児童・生徒の学力の状況

- 学力テストの結果から中下位層の児童が多い。
- 自尊感情（自己肯定感）が育ってきている。
- 児童の読書量及びRSTの結果から、文章を読み取る力、語彙力に課題が見られる。読解力の不足により、学習の定着が難しいと思われる児童がいる。
- 自主的な学習を進める力が不足している。学力の個人差が大きくなりつつある。
- 特別な配慮を要する児童が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 全ての教科における、「読み解く力」を身に付けさせるための授業革新。
- 板橋区授業スタンダード、及び板橋区授業スタンダードSの全教員による共通理解及び確実な実施。
- 主体的・対話的な授業の計画的な実施。
- ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。
- 特別な配慮を要する児童への、個に応じた指導の計画及び実施。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 児童に基礎的・基本的な学習内容が身に付くような「分かる」「できる」授業を実施していく。問題文を正しく把握し、自分なりの解答を導き出す力を身に付けられるようにする。そのために、文章を整理しながら読んだり、文章の根拠を明らかにしながら内容を理解したりすることをねらいとした「読み解く力」を高める授業を工夫していく。
- 全ての教科において、学習に望む姿勢（学習規律）、ノート指導の充実、「板橋区 授業スタンダード」及び「板橋区授業スタンダードS」の確実な実施に努めることを通して、知識・技能の習得、理解力・判断力・表現力の伸長、学びに向かう力・豊かな人間性の涵養を図る。
- 教育のICT化を推進し、タブレットPCや電子黒板、デジタル教材等を効果的に活用した授業の構築に努める。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- 板橋区授業スタンダード、板橋区授業スタンダードSの学習の流れに沿った授業を定着させる。内容に応じて、学習課題・めあてを児童が設定する場面を設け、振り返ることによって次の学習に繋げていくことを意識する。また、単元の中で学習内容や進め方等を児童が選択できる場面を設定する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ICT機器の有用性を全職員で共通理解し、活用場面や方法を互いに情報交換して、ICT機器の効果的な活用を取り入れた授業を展開できる指導力の向上に努める。
- Chromebookを、調べ学習や習熟の場面で活用するとともに、Googleの機能を利用して、学び合いや協働的な学習の場面で活用していく。

視点3

生活科・総合的な学習の時間における
自己調整型・自己選択学習の推進

- 生活科・総合的な学習の時間に取り組む内容と関連のある各教科等の学習内容を把握し、各教科等と総合的な学習の時間をつながりのあるものにする。授業においては探究的な学習のプロセスを大切に、学びたいこと、学び方を児童が自己選択、自己決定できるようにする。
- 生活科・総合的な学習の時間に、必要に応じて地域の協力を得ながら、2学年合同で自己調整型・自己選択学習で学ぶ、「I LOVE 高島平」の時間を設定する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

- 学びの場面で授業参観、TT授業や派遣授業、協議会を行い、学力の向上及び生活指導の充実、授業や生活の規律（ルル）の共通化を目指す。
- 新1年生が学校生活に円滑に適応できるように4月～5月中旬までの期間は40分授業を行う。
- 3学期に学区内の保育園・幼稚園と1年生とで交流会を行い、園児の小学校入学に向けた不安を和らげ、期待を高める。

豊かな心と健やかな体の育成

- 学級活動の計画的な実施により、児童が他者を尊重し、自らの行動を決断し、実行する力を育成する。
- 通常学級と特別支援学級の交流学习を充実させ、学級活動をはじめ、参加できる授業や取り組みを一緒にに行い、分け隔てなく関わる実践的な態度を育成する。
- 第6学年では、認知症サポーター等、地域の高齢者と関わり合う学習を通して、郷土愛や地域福祉への関心を高める。

多様な教育的ニーズへの対応

- 地域のシニア団体の方と連携して、毎週火曜日と木曜日の午前中に「ネットルーム」を開設し、不登校児童や教室に入れない児童、地域の高齢者が過ごせる場所として解放する。
- 特別支援教室と在籍学級で、毎月、情報共有会を開き、ステップアップ教室巡回教員、担任、特別支援教室専門員で、児童の状況、指導方針等について情報共有を図る。